

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く
都道府県別訪日外客数と訪問率
 月次指標の早期推計：12月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
 稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
 松林洋一（APIR 上席研究員）
 内容に関するお問い合わせは下記まで
 e-mail: contact@apir.or.jp

ポイント

●1月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、**12月の訪日外客総数(推計値)**は**361万7,000人**であった。前年同月比+3.7%、増加幅は前月の同+10.4%から縮小し、5ヶ月ぶりに1桁の伸びとなつた。日中関係悪化に伴う、中国人客の訪日旅行自粛が影響した。また、**同月の出国日本人数**は**130万700人**であった(同+9.6%)。なお、2019年同月比では-24.0%と減少幅は前月の同-19.0%から拡大。アウトバウンド需要の回復ペースは依然緩慢である。

▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図 2 及び表 4)、12月は**韓国が97万4,200人**(前年同月比+12.3%)と最多で、**単月過去最高値を更新**。次いで**台湾が58万8,400人**(同+19.8%)、**中国が33万400人**(同-45.3%)、**香港が29万1,100人**(同+1.9%)、**米国が27万700人**(同+13.5%)と続く。コロナ禍後も着実に伸びていた**中国人客**は初めて減少に転じた。ちなみに影響のない10月の伸び率は同+22.8%であった。今後、しばらく前年比半減のペースが続く可能性が高い。

▶**2025年通年の訪日外客数は4,268万3,551人**で、過去最高値であった**24年の水準(3,687万148人)**を上回り、初めて**4,000万人**を突破した。一方、**日本人出国者数は1,473万1,524人**と、前年(1,300万7,279人)から増加したものの、**コロナ禍前の7割程度(-26.6%)の回復にとどまった**。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図3及び表5)、10月は389万6,524人**(前年同月比+17.6%)。うち、**観光客は357万9,441人**(同+18.5%)、**10月過去最高値を更新**。**その他客**は19万6,835人(同+16.5%)、**商用客**は12万248人(同-1.0%)であった。

▶観光庁は2026年1月30日に**第5次観光立国推進基本計画案**を公表した。1)「インバウンドの受入れと住民生活の質と確保の両立」、2)「国内交流・アウトバウンドの拡大」3)「観光地・観光産業の強靭化」が計画案の**3つの柱**である。具体的には、1)では2030年訪日外客6,000万人、消費額15兆円は継続しつつも、「観光客の受入と住民生活の質の確保との両立に取り組む地域数を100地域」とする**新たな目標が設定**された。また、2)では、2030年国内旅行消費額30兆円、日本人の海外旅行者数を2,008万人(過去最高値)と、**目標が見直された**。加えて、3)では宿泊業の付加価値目標額を6.8兆円と新たに設定された。インバウンドのみならずアウトバウンドや国内旅行に関する目標の見直し、新たな設定がなされたことが今回の特徴である。**インバランスに配慮した観光政策**となっている。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移

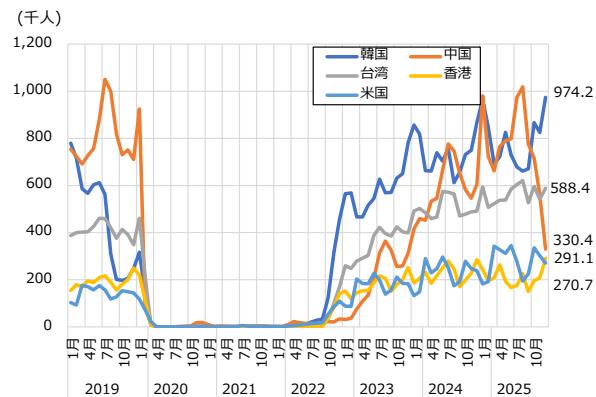


注：2023年まで確定値、24年、25年10月は暫定値。

2025年11-12月は推計値

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

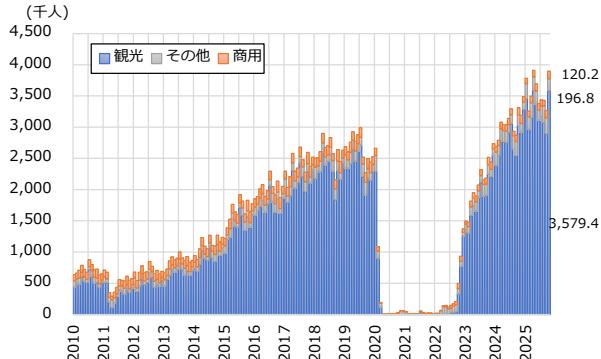
図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5の国・地域は値を表示している

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図3 目的別訪日外客数推移



注：目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2ヶ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいます。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

●12月関西の財貨・サービス貿易及びサービス産業動向

▶ **関西 12月の輸出額**は前年同月比+9.0%と 15カ月連続で増加し、増加幅は前月の同+7.6%から拡大した。輸入額は同+12.0%と 2カ月連続で増加し、前月の同+4.5%から大幅拡大。結果、**関西の貿易収支**は+3,483億円と 11カ月連続の黒字となった(図 4)。輸出、輸入ともに増加したが、後者の伸びが前者のそれを大きく上回ったため、黒字幅は同-4.3%と 8カ月ぶりに縮小(前月：同+29.7%)。2025年通年では、輸出は前年比+4.5%(前年：同+2.8%)、輸入は同+2.4%(前年：同+1.3%)といずれも 2年連続の増加。結果、貿易収支は 11年連続の黒字(+2兆 9,545億円)、黒字幅は同+21.2%と 3年連続で拡大した(前年：同+16.7%)。

▶ 対中国貿易動向をみると(図 5)、**関西 12月の対中国輸出**は前年同月比+14.3%(前月：同+5.3%)と 4カ月連続で増加した。輸出増に寄与したのは、半導体等電子部品や半導体等製造装置等。また、**対中国輸入**は同+19.3%(前月：同+8.9%)と 2カ月連続の増加。輸入増に寄与したのはがん具及び遊戯用具や通信機等であった。

▶ **12月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数**は 83万 8,628人(図 6)。前年同月比-5.3%と 2022年1月(同-68.0%)以来のマイナスとなった。一方、同月の日本人出国者数は 26万 3,140人、同+15.1%となった。なお、2019年同月比では-23.5%と、減少幅は前月(同-17.4%)から拡大しており、アウトバンド需要の回復ペースは緩慢。25年通年の関空への訪日外客数は 1,083万 6,129人となり、初めて 1,000万人を突破(前年比+14.6%)。一方、日本人出国者数は 284万 6,258人(同+16.3%)、コロナ禍前 7割程度の回復(19年比-28.4%)にとどまった。

▶ サービス業の生産活動を示す**第3次産業活動指数**(季節調整済み：2019-20年平均=100)をみれば(図 7)、12月は 104.8 で前月比-0.5%と 2カ月連続のマイナスとなった(前月：同-0.4%)。経済産業省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」と前月から据え置いた。また、同月の**対面型サービス業指標***は 106.6 で同-0.4%と、3カ月ぶりのマイナス(前月：同+1.3%)。うち、宿泊業、飲食サービス業(同-2.0%、3カ月ぶり)、医療、福祉(同-0.4%、2カ月ぶり)等が低下に寄与した。10-12月期の第3次産業活動指数は前期比+0.3%と 4四半期連続で、対面型サービス業指数は同+0.6%と 2四半期連続でそれぞれ上昇した(7-9月期：第3次産業活動指数：同+0.4%、対面型サービス業指標：同+0.2%)。

▶ **12月の観光関連指標****(季節調整済み：2019-20年平均=100)は(図 7)、114.2 と前月比-0.8%低下し、2カ月ぶりのマイナス(前月：同+2.5%)。うち、宿泊業、飲食サービス業や公園、遊園地・テーマパーク(同-3.9%、2カ月ぶり)等が低下に寄与した。10-12月期の観光関連指標は前期比+0.8%と 2四半期連続で上昇した(7-9月期：同+0.2%)。

*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

**観光関連指標は第3次産業活動指標のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指標の加重平均。

図 4 関西 対世界貿易の推移

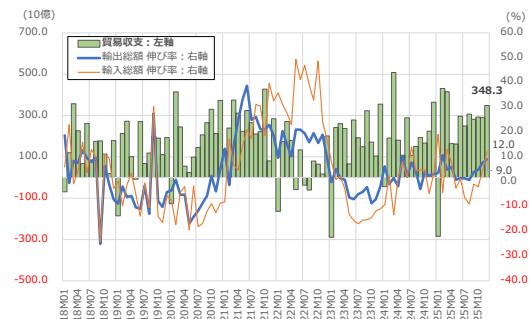
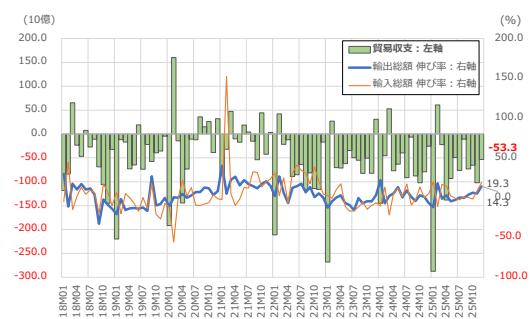


図 5 関西 対中貿易の推移



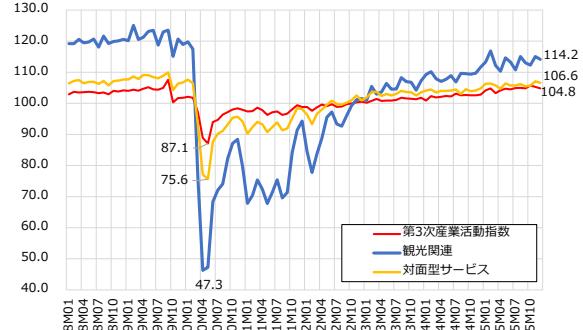
出所：『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』
より筆者作成(図 4～5)

図 6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。
2025年12月値は速報値

図 7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：
2019-20年平均=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指標」より筆者作成

トピックス 2

●10月延べ宿泊者数の動向：関西 2府8県

►観光庁によれば、10月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は12,441.3千人泊(表1)。前年同月比-1.2%と3カ月ぶりの減少となつた(前月：同+2.2%)。

►日本人延べ宿泊者数は7,932.2千人泊となつた。前年同月比-1.4%と6カ月ぶりの減少(前月：同+7.1%)(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,885.2千人泊と最も多い。次いで、京都府1,337.1千人泊、兵庫県1,234.3千人泊、三重県750.8千人泊、滋賀県402.7千人泊、福井県324.8千人泊、和歌山県319.9千人泊、奈良県258.0千人泊、徳島県210.4千人泊、鳥取県209.0千人泊であった。関西10月の前年同月比(-1.4%)に対する寄与度をみれば、減少に寄与したのは、京都府(同-1.1%ポイント)、兵庫県(同-1.0%ポイント)、鳥取県(同-0.4%ポイント)等の7府県であった。一方、三重県(同+0.8%ポイント)、大阪府(同+0.4%ポイント)、奈良県(同+0.3%ポイント)の3府県が増加に寄与した。なお、大阪府は9月の寄与(同+9.9%ポイント)から大幅低下した。

►外国人延べ宿泊者数は4,509.1千人泊であった(表1及び図9)。前年同月比-0.9%と4カ月連続の減少だが、減少幅は前月の同-8.1%から縮小した。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,157.3千人泊、京都府1,834.3千人泊と2府への集中が続いている。次いで、兵庫県231.8千人泊、和歌山県125.0千人泊、奈良県47.6千人泊、三重県34.2千人泊、徳島県25.8千人泊、滋賀県25.5千人泊、鳥取県19.2千人泊、福井県8.4千人泊であった。前年同月比(-0.9%)への寄与度をみれば、大阪府(同-4.7%ポイント)、滋賀県(同-0.0%ポイント)と福井県(同-0.0%ポイント)の3府県が外国人延べ宿泊者の減少に寄与した。

►なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金:2019年=100)をみれば、2025年12月は78.1となつた。前年同月比-5.0%と33カ月連続で悪化したが、前月の同-6.9%から悪化幅は縮小。ただし、依然として宿泊料金の高止まりが続いていることから、日本人宿泊者にとって厳しい状況が続いている(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

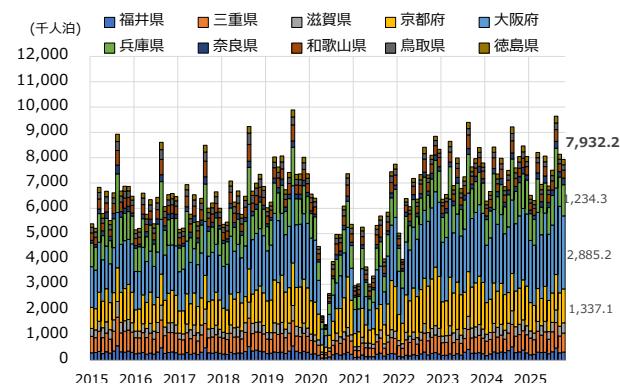


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

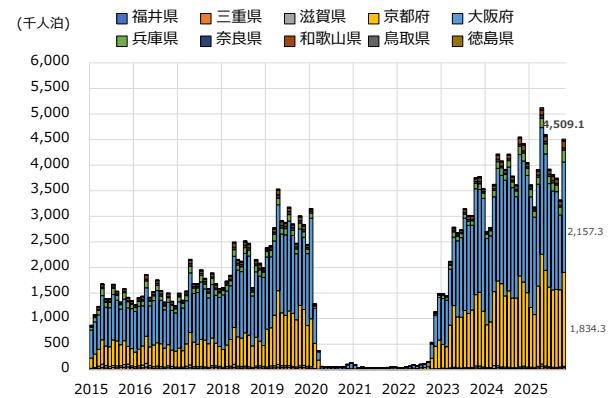
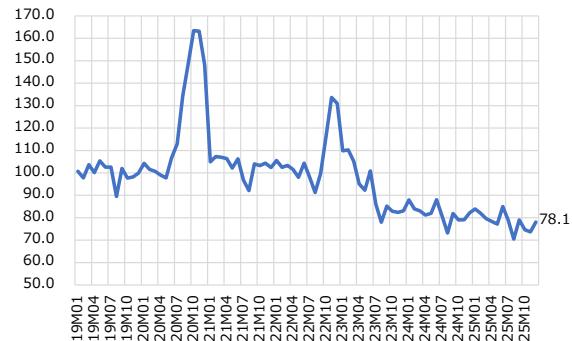


図10 宿泊料金と賃金の交易条件 (現金給与総額/宿泊料金)



注：交易条件は賃金(現金給与総額)を宿泊料金(消費者物価)で除した指
数。2019年平均を100。

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計
調査』より筆者作成

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：10月

2025年10月	総数				日本人				外国人			
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	333.2	-1.8	0.0	-1.4	324.8	-1.6	-0.1	-1.9	8.4	-10.0	0.0	31.3
三重県	785.0	11.2	0.6	3.9	750.8	9.7	0.8	1.7	34.2	62.7	0.3	93.4
滋賀県	428.2	-1.1	0.0	3.0	402.7	-1.0	0.0	3.7	25.5	3.8	0.0	-11.4
京都府	3,171.4	-1.0	-0.3	2.1	1,337.1	-6.2	-1.1	-6.4	1,834.3	3.2	1.2	10.9
大阪府	5,042.5	-3.5	-1.5	5.0	2,885.2	1.1	0.4	28.3	2,157.3	-9.1	-4.7	-26.2
兵庫県	1,466.1	-0.6	-0.1	-5.3	1,234.3	-6.1	-1.0	-9.2	231.8	43.7	1.5	38.2
奈良県	305.6	8.2	0.2	9.4	258.0	8.4	0.2	9.3	47.6	7.3	0.1	10.3
和歌山県	444.9	0.7	0.0	0.0	319.9	-4.2	-0.2	-2.6	125.0	15.7	0.4	11.7
鳥取県	228.2	-9.2	-0.2	-15.3	209.0	-13.3	-0.4	-19.0	19.2	86.6	0.2	76.0
徳島県	236.2	-0.7	0.0	4.6	210.4	-3.6	-0.1	3.2	25.8	32.4	0.1	28.7
関西2府4県	10,858.7	-1.9	-	2.6	6,437.2	-2.1	-	9.1	4,421.5	-1.6	-	-8.9
関西2府8県	12,441.3	-1.2	-1.2	2.2	7,932.2	-1.4	-1.4	7.1	4,509.1	-0.9	-0.9	-8.1
全国	58,610.5	-1.6	-	-3.6	42,131.7	-3.6	-	-5.0	16,478.8	3.7	-	1.3

注：表中の赤枠は寄与度が高いTOP3を示している。

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8~9及び表1)

トピックス 3

●2025年10-12月期訪日外国人消費の動向

- ▶ 観光庁によれば、**2025年10-12月期の訪日外国人消費額(速報、全目的ベース)**は**2兆5,330億円**となった(図11)(7-9月期:2兆1,384億円)。前年同期比+10.3%と**24年**に入って、**8四半期連続で2桁の伸び**となっている。結果、**25年通年の消費額は9兆4,559億円**と、過去最高値であった**24年通年(8兆1,257億円)**を上回った。
- ▶ 10-12月期の訪日外国人消費額のトップ5を国・地域別(その他除く)にみれば(図12)、**中国**が3,534億円(前年同期比-17.9%)と**最多**であった。次いで、米国が3,265億円(同+22.1%)、台湾が3,067億円(同+4.7%)、韓国が2,717億円(同+4.1%)、香港が1,597億円(同-2.3%)と続く。**伸び率**をみれば、**香港は4四半期連続で減少**。また、**中国**は日中関係悪化の影響もあり、経済活動が正常化した**2024年以降**、初めて減少に転じた。
- ▶ **一般客1人1泊当たり旅行支出(全目的)**は2万8,249円となった。前年同期比+3.8%、3四半期ぶりの増加に転じた(7-9月期:同-18.3%)。国・地域別にみれば(表2)、シンガポールが4万5,128円(同+30.9%)と最も高い。次いで、香港が4万217円(同+4.9%)、タイが3万4,167円(同+18.3%)、米国が3万3,818円(同+7.6%)、英国が3万3,227円(同+1.2%)となっている(表2)。
- ▶ 10-12月期の**1人1泊当たり旅行支出を費目別**でみれば(表3)、宿泊費が1万672円(同+11.5%)と最も多く、次いで買物代が7,456円(同-4.4%)、飲食費が6,075円(同+7.0%)、交通費2,848円(同-4.1%)、娯楽等サービス費が1,193円(同+0.3%)と続いている。なお、平均泊数は8.3泊と、前年同期差-0.4泊小幅減少した。

*トピックス3は四半期ごとの掲載である。

**「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1年未満の滞在者が対象である。

図11 訪日外国人消費額の推移

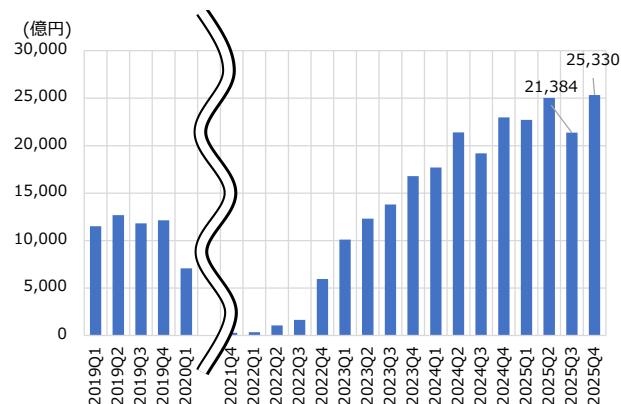
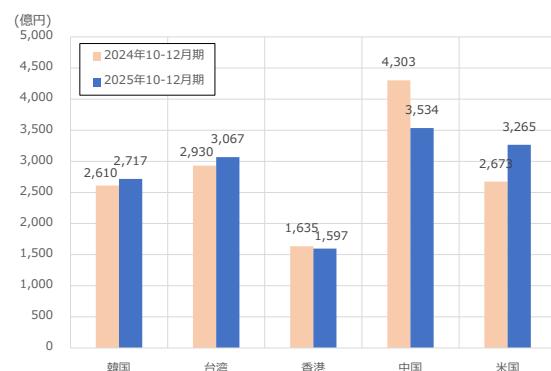


図12 訪日外国人消費額の上位5か国・地域：
2025年10-12月期



(注) 「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2024年までは確報、25年10-12月期は速報。

出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成(図11~12)

表2 国・地域別一般客1人1泊当たり旅行支出(全目的)：2025年10-12月期

国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム
2024年10-12月期(円/人)	27,206	28,415	33,465	38,351	32,462	28,889	34,482	29,268	15,011	13,631	5,850
2025年10-12月期(円/人)	28,249	27,068	31,096	40,217	30,052	34,167	45,128	28,327	15,718	14,056	7,878
前年同期比(%)	+3.8	-4.7	-7.1	+4.9	-7.4	+18.3	+30.9	-3.2	+4.7	+3.1	+34.7
国・地域	インド	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	ロシア	米国	カナダ	オーストラリア	その他
2024年10-12月期(円/人)	20,155	32,842	25,234	21,792	26,383	27,531	21,788	31,427	26,876	30,060	21,720
2025年10-12月期(円/人)	21,218	33,227	27,679	24,341	27,576	32,695	26,094	33,818	29,658	33,181	28,840
前年同期比(%)	+5.3	+1.2	+9.7	+11.7	+4.5	+18.8	+19.8	+7.6	+10.4	+10.4	+32.8

表3 一般客1人1泊当たり旅行支出(全目的)：2025年10-12月期

1人1泊当たり旅行支出	総額	費目別						平均泊数(泊)
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2024年10-12月期(円/人)	27,206	9,568	5,679	2,969	1,190	7,797	3	8.7
2025年10-12月期(円/人)	28,249	10,672	6,075	2,848	1,193	7,456	5	8.3
前年同期比(%)	+3.8	+11.5	+7.0	-4.1	+0.3	-4.4	+67.6	-0.4

出所：観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成(表2~3)。

表4 2025年12月 訪日外客数 (JNTO推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2024年	2025年	伸率 (%)	2024年	2025年	伸率 (%)
	12月	12月		1月～12月	1月～12月	
総数	3,489,888	3,617,700	3.7	36,870,148	42,683,551	15.8
総数(中国除く)	2,885,595	3,287,300	13.9	29,888,806	33,587,239	12.4
韓国	867,377	974,200	12.3	8,817,765	9,459,605	7.3
中国	604,293	330,400	-45.3	6,981,342	9,096,312	30.3
台湾	491,162	588,400	19.8	6,044,316	6,763,426	11.9
香港	285,553	291,100	1.9	2,683,391	2,517,333	-6.2
タイ	146,666	174,000	18.6	1,148,848	1,233,098	7.3
シンガポール	136,250	140,600	3.2	691,226	726,212	5.1
マレーシア	71,629	100,600	40.4	506,883	636,632	25.6
インドネシア	74,994	81,700	8.9	517,651	640,567	23.7
フィリピン	108,515	115,600	6.5	818,659	885,055	8.1
ベトナム	40,060	43,700	9.1	621,173	678,548	9.2
インド	17,001	23,300	37.1	233,061	315,062	35.2
豪州	112,500	121,300	7.8	920,196	1,058,336	15.0
米国	238,523	270,700	13.5	2,724,594	3,306,769	21.4
カナダ	48,259	57,200	18.5	579,445	688,023	18.7
メキシコ	12,021	17,000	41.4	151,835	200,395	32.0
英国	30,319	34,600	14.1	437,230	534,987	22.4
フランス	20,712	26,000	25.5	385,071	457,579	18.8
ドイツ	15,781	20,400	29.3	325,870	429,515	31.8
イタリア	15,141	21,700	43.3	229,785	309,389	34.6
スペイン	10,503	13,600	29.5	182,284	245,556	34.7
ロシア	5,879	8,300	41.2	99,264	194,928	96.4
北欧地域	10,635	13,300	25.1	150,730	192,897	28.0
中東地域	12,569	17,400	38.4	166,259	257,184	54.7
その他	113,546	132,600	16.8	1,453,270	1,856,143	27.7

表5 2025年10月 目的別訪日外客数 (JNTO暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)
	10月	10月		10月	10月		10月	10月		10月	10月	
総数	3,312,193	3,896,524	17.6	3,021,710	3,579,441	18.5	121,490	120,248	-1.0	168,993	196,835	16.5
韓国	732,167	867,261	18.5	701,198	838,738	19.6	17,868	14,554	-18.5	13,101	13,969	6.6
中国	582,919	715,804	22.8	506,881	627,210	23.7	25,557	26,532	3.8	50,481	62,062	22.9
台湾	478,902	595,915	24.4	463,617	580,210	25.1	8,926	8,434	-5.5	6,359	7,271	14.3
香港	198,827	196,017	-1.4	194,958	191,657	-1.7	2,224	2,259	1.6	1,645	2,101	27.7
タイ	132,188	125,894	-4.8	126,914	120,296	-5.2	2,988	2,859	-4.3	2,286	2,739	19.8
シンガポール	68,790	65,745	-4.4	65,910	62,639	-5.0	2,457	2,668	8.6	423	438	3.5
マレーシア	55,091	57,790	4.9	52,583	55,323	5.2	1,699	1,561	-8.1	809	906	12.0
インドネシア	43,215	53,387	23.5	32,475	38,660	19.0	1,871	1,886	0.8	8,869	12,841	44.8
フィリピン	80,244	86,150	7.4	67,858	71,817	5.8	7,392	8,264	11.8	4,994	6,069	21.5
ベトナム	50,982	53,238	4.4	16,079	16,425	2.2	3,831	3,891	1.6	31,072	32,922	6.0
インド	21,706	29,418	35.5	14,445	20,567	42.4	4,723	5,569	17.9	2,538	3,282	29.3
豪州	90,157	96,158	6.7	86,933	92,874	6.8	2,230	2,210	-0.9	994	1,074	8.0
米国	278,461	335,744	20.6	261,069	317,883	21.8	12,905	12,273	-4.9	4,487	5,588	24.5
カナダ	66,524	73,667	10.7	64,468	71,410	10.8	1,225	1,322	7.9	831	935	12.5
メキシコ	19,199	24,764	29.0	18,567	24,220	30.4	369	311	-15.7	263	233	-11.4
英国	51,637	63,343	22.7	47,139	58,759	24.7	3,120	3,039	-2.6	1,378	1,545	12.1
フランス	49,389	58,242	17.9	45,413	54,360	19.7	2,453	2,362	-3.7	1,523	1,520	-0.2
ドイツ	43,351	56,020	29.2	39,181	51,877	32.4	3,183	3,133	-1.6	987	1,010	2.3
イタリア	25,063	29,425	17.4	22,800	27,115	18.9	1,592	1,664	4.5	671	646	-3.7
ロシア	15,701	30,053	91.4	14,469	28,654	98.0	698	874	25.2	534	525	-1.7
スペイン	23,391	28,749	22.9	22,290	27,577	23.7	714	690	-3.4	387	482	24.5
中東地域	20,859	27,863	33.6	19,373	26,402	36.3	977	866	-11.4	509	595	16.9
その他	183,430	225,877	23.1	137,090	174,768	27.5	12,488	13,027	4.3	33,852	38,082	12.5

注：目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域

出所：日本政府観光局(JNTO)、2026年1月21日付より筆者作成(表4～5)